

平成17年度 大学機関別認証評価
評価報告書

金沢工業大学

平成18年3月24日

財団法人 日本高等教育評価機構

I 認証評価結果

【判定】

評価の結果、金沢工業大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。

【認定期間】

認定期間は、平成 17 (2005) 年 4 月 1 日から平成 24 (2012) 年 3 月 31 日までとする。

【条件】

特になし。

II 総評

建学の精神・建学の綱領が明確に定められており、それに基づく大学の使命・目的の達成のための教育内容が具体的に示され、規則集、ホームページ、「イーグルブック」、入学案内や研修会等を通して公表し、学内外へ十分に周知されている。さらに教職員の行動規範として「KIT-IDEALS」を定めるとともに教室等学内の各所にポスター等で掲示し、人間形成の場にふさわしい学園の実現に努めている。

「自ら考え行動する技術者の育成」という教育活動の目標に基づき、「知恵の修得による問題発見・解決型」教育システムの構築を目指し、人間形成のための教養教育課程及び技術者育成のための専門教育課程が適切に編成され、有機的に連携されている。また、教育研究を行うための十分な校地、校舎を保有し、諸施設設備が整備され、大学設置基準を十分に満たす教員も配置されており、学生中心・教育重視の姿勢が具現化されている。さらに全学部、学科を横断する組織として、「教育支援機構」及び「研究支援機構」が設置され、教育研究を支援するための独自の方策が講じられており、非常に優れた取組みである。特に「教育支援機構」の下部組織の一つである「夢考房」は、学生が自由に活用できる自主的なものづくりの場として、教育課程をサポートするだけでなく、学生の創造的な課外活動の支援としても大きな教育成果をあげている。

適切な事務体制のもと、職員が配置され、大学の運営は効果的に行われている。さらに、大学のビジョンである教育・研究・サービスの卓越性の追求に向けて、教職員が連携を図り、大学全体として教育研究活動の支援を行っている。

教育研究の目的を達成するための必要な財政基盤を有するとともに予算が適切に編成され、会計処理及び会計監査が適正に実施されており、収支のバランスを考慮した適切な財務運営が行われている。また、学内報やホームページ等を通して財務情報も適切に公開されている。

「KIT サマー・サイエンス・スクール」や全国初のキャンパス FM 放送局「えふえむ・エヌ・ワン」の開設など、大学が持つ物的・人的資源が周辺地域を含め、広く社会に提供されている。野々市町との共同研究、委託研究を行い、町が標榜する「文教の町づくり」にも貢献している。

特記事項としては、「イーグルブック」が掲載されている。建学の精神、建学の綱領、目

的、ビジョン及び行動規範等があげられており、建学の精神・建学の綱領に基づき、行動規範を定め、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする「工学アカデミア」を目指すという学園の経営理念が十分に理解できる内容として特筆できる。

総じて、大学全体として、工学系総合大学にふさわしい学部・学科から構築され、特色のある、優れた教育研究を行っており、多くの優れた点を指摘することができ、特に改善すべき点は見当たらなかった。参考意見は、今後より質の高い高等教育機関として発展・向上し続ける上で参考とされたい。

III 基準ごとの評価

基準1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

【判定】

基準1を満たしている。

【判定理由】

建学の精神に基づく建学の綱領を(1)高邁な人間形成、(2)深遠な技術革新、(3)雄大な産学協同と定めるとともに、教職員の行動規範として「KIT-IDEALS」を定め、人間形成の場にふさわしいキャンパスの実現を期している。

上記の建学綱領を実現するために、大学の使命・目的を、

- (1) 教育の卓越性：人間形成を目的とする「教育付加価値日本一の大学」を目指して「行動する技術者」の育成
- (2) 研究の卓越性：「共同と共創」による技術革新と産学協同の実現を目指し「国際社会に貢献する科学技術」の開発
- (3) サービスの卓越性：「自己点検評価システムの成熟」を図り顧客満足度の向上を目指し「夢考房キャンパス」の実現

と明確に定められており、その内容を規則集、ホームページ、「イーグルブック」等に掲載するとともに、教室など学内の各所に行動規範を示したポスター等も掲示されている。また、理事長・学長等が研修会などを通じ、学内外への周知に努めている。

基準2. 教育研究組織

【判定】

基準2を満たしている。

【判定理由】

建学の精神に基づき、教育と研究を両立するという方針を明確に定め、またそれを実現するきめ細かな教育研究組織を構築している。

工学系総合大学として、学部を平成16年に3学部15学科に再編し、時代の変化に対応している。大学院においては、連携、連合大学院を積極的に構築し、他大学等との協力を

図っている。「研究支援機構」、「教育支援機構」における各組織にきめ細かく事務担当者を置くなど、事務組織と教育組織との連携も充実している。

人間形成のための教養教育にも独自の課程を設けるなど大きな配慮が行われ、その組織も適切に設置されている。教育方針を形成する組織は、連絡機関、審議機関、議決機関の役割分担を明確にする等、適切に構築され、機能するよう運営されている。また、「十年委員会」及びその下部組織として評価、向上のための各種委員会を置くなど、継続的に教育研究が向上する仕組みも整備されている。

【優れた点】

- ・全学部、学科を横断する基本的な支援組織として、「教育支援機構」と「研究支援機構」が設置されている。特に、「教育支援機構」には「工学基礎教育センター」、「工学設計教育センター・夢考房」、「ライブラリーセンター」など、独立した教育支援組織が置かれ、有機的に連携されている。「研究支援機構」には多数の附置研究所、研究センターが置かれ、学部教育、大学院教育の充実が図られている。

【参考意見】

- ・平成 16 年の学部・学科再編の完成年度までに大学院工学研究科の改編を検討しているとのことであるが、連携、連合大学院を更に発展させることにより、今後の大学院教育の充実を図っていくことに期待する。

基準 3. 教育課程

【判定】

基準 3 を満たしている。

【判定理由】

大学の教育目標に即したカリキュラムの編成が行われている。教育目標の達成を確実にするため、工学設計教育を柱とする独自のカリキュラムが構築されている。教育目標と教育課程、教育方針との関連性について、「イーグルブック」、「CURRICULUM GUIDE BOOK」等において学内外に明確に示されている。授業期間、授業時間、単位の認定の要件等は適切に定められており、教育効果の評価は厳正に行われている。また、修学基礎教育課程を設け、導入教育の充実注力しており、教育内容・方法の工夫が行われている。さらに 3 学期制の導入、工学における能力の総合化教育など、特色ある教育内容、方法も評価できる。

【優れた点】

- ・「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の三大旗標のもと、「自ら考え行動する技術者の育成」を教育目標として、工学設計教育と修学基礎教育課程を支柱とする教育課程が編成され、独自の教育方法を展開し、学生の満足度も高く、教育の活性化が実現されている。

基準 4. 学生

【判定】

基準 4 を満たしている。

【判定理由】

各種入試・入学制度を採用し、大学が求める学生像や受入れ方針が大学案内や「CAMPUS」等を通じて、受験生、保護者及び高校の教員等に明確に示されている。入学試験実施説明会において、学長が自ら注意事項や要項について説明するなど、厳正な入試の実施を行うための取組みがなされている。

建学の精神から導かれた「自ら考え行動する技術者の育成」という教育目標に沿って、「教育支援機構」を組織し、「ライブラリーセンター」、「工学設計教育センター・夢考房」、「情報処理サービスセンター」、「工学基礎教育センター」等が設置され、学生に対する学習支援活動に努めている。

一方、学生サービスでは、「修学相談室」や「学生相談室」において、学生の厚生補導、生活相談のほか、専門カウンセラーによるカウンセリングも行っており、教職員一体となった体制で適切に運営されている。

卒業後の進路・就職指導は、「進路開発センター」を中心に取り組んでおり、高い就職率という結果だけでなく、学生の進路指導に対する満足度も高い。

基準 5. 教員

【判定】

基準 5 を満たしている。

【判定理由】

十分な教員数が確保され、教育課程に応じて教員が適切に配置されている。教育を重視する明確な意図を持って教員の採用が行われ、明確な評価基準に基づいて昇任人事が行われている。学事運営、特別役職の担当等学内諸業務からの負担が教育に影響しないよう、教員の教育担当時間は適正に配分されているとともに TA、SA の採用による教育支援にも十分な配慮が払われている。学生による授業評価、大学による教育評価等を通じて、教員の教育活動を活性化すると同時に、教育を重視するという大学の強い意志のもとに教育の改善が図られている。

【優れた点】

- ・「工学基礎教育センター」は教育を重視する金沢工業大学の大きな特色の一つである。組織を設置し運営に当たる大学、チューターとして学習支援を行う専任教員、センターを積極的に利用する学生の三者が構成するこのセンターのあり方は、学生・理事・教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする「工学アカデミアの実現」の具現化を目的として教育を展開しているこの大学を象徴する。

- ・大学は教員評価の明確な基準（教育：研究：社会貢献＝5：3：2）を定め、高い比重で教育貢献に評価を与え、それを昇任に際しての重要な評価ポイントとしている。「工学基礎教育センター」をはじめとする各教育組織において高い志を持ち教育に当たる教員と、それを正當に評価するこのような大学の姿勢が一体となって、金沢工業大学における高い教育意識を醸成し維持している。
- ・教員の教育活動を活性化するため、教員と職員が一体となった実質的なFD活動が大学全体で展開されており、教育の改善が絶えず図られている点は高く評価できる。
- ・講師以上の新任教員が「工学設計教育センター」に配属され、センター専任教員とともに基礎教育段階にある学生のチューターを務める制度は、新任教員研修としても優れた制度であると高く評価できる。

【参考意見】

- ・明快な教員の教育評価を行っているが、現状に満足せず、よりの確な教育評価を模索して苦勞している様子が見える。さらに優れた教育評価のあり方を確立し、他大学の規範となることを期待する。

基準6. 職員

【判定】

基準6を満たしている。

【判定理由】

大学の目的を達成するために、新卒者に限定せず、経験者を含め、統一した職員の採用方針が明確に示されている。また、異動、昇任についても、事務職員、技術職員の基礎資格基準に基づき適切に運営している。大学の教育研究支援のために教職員が一体となった体制が構築されており、それを機能させるために職員の資質向上を目的とした取組みが行われている。

教育研究の目的を達成するために教員・職員が共に海外へ赴くこと、全国各地での学生募集を職員が責任担当制のもとに実施していること、学内においても「工学基礎教育センター」など大学各組織に教職員が協力して運営に当たっていることは高く評価できる。

【優れた点】

- ・職員の基本的な資質向上を目指し、業務を遂行するためのスキルやコミュニケーションなどの基本的な能力開発を目指した各種研修会（JQAセルフアセッサー研修会等）への積極的な参加を促していることは高く評価できる。
- ・職員が積極的に教育研究に携わっていることは大学の大きな特色であり、教育研究の重視を明確にした教職員合同研修の成果であると高く評価できる。

基準 7. 管理運営**【判定】**

基準 7 を満たしている。

【判定理由】

管理運営の体制は、大学のビジョンである教育・研究・サービスの卓越性追求に向けて適切に構築され、機能していることが認められる。

建学綱領に基づいた学園経営を実践するため、建学の精神の継承・啓蒙を図ることを目的とした「明倫館」が設けられ、教職員の研修等の適切な「場」となっている。

特に、学園共同体の理想とする「工学アカデミア」の実現を目指し、理事長を議長とする「学園協議会」（学生、理事、教職員で構成）が、理事会・教授会・学友会との連携を図る協議の場として機能している。

また、理事会業務のうち、通常業務の運営は、「常任理事会」（各部局長も出席）に委譲されており、通常業務の迅速化が図られていることが認められる。

一方、経営の自己点検・評価に関する業務を行うため、独立性を確保した機関として「監査室」が設けられており、各部署の業務監査が年間スケジュールに従い実施され、その結果が業務監査報告書として理事長に提出され、理事会に報告されている。

【優れた点】

- ・日本技術者教育認定機構（JABEE）や日本経営品質賞（JQA）、大学基準協会などによる評価を積極的に受けており、各学科や担当する部署における改善に向けた活動が行われていると認められる。

基準 8. 財務**【判定】**

基準 8 を満たしている。

【判定理由】

予算編成については、教育研究の目的を達成するため、常務理事のもとに組織された「予算編成審議会」において、各組織で立案された計画に基づき、予算原案が作成されている。その後、「常任理事会」及び諮問機関である「評議員会」の審議を経て、「理事会」において適正に決定されている。

また、収入・支出のバランスを考慮し、適切な財務運営を図り、会計処理及び会計監査等が適正に実施されている。特に、平成 19 年度までに臨時定員の解消を行い、恒常的定員になることを見越して計画的に財務計画を進行させていることは、高く評価できる。

財務情報の公開については、学内報をはじめホームページ等に公開されており、適切であると認められる。

外部資金の導入等の努力については、科学研究費補助金を中心に、文部科学省が平成 8

年度から実施している諸事業の補助金応募を積極的に行い、採択されている。また、新たに特許出願等を奨励し、外部資金の収入確保に積極的に取り組んでいることは、高く評価できる。

【優れた点】

- ・平成 16 年度において、消費収支計算書関係比率を平成 15 年度の「大学法人、単一学部、理・工系学部」（日本私立学校振興・共済事業団の『今日の私学財政』平成 15 年度版）の平均値と比較すると、人件費比率は下回っており、教育研究経費は大きく上回っている等、教育研究目的を達成するための財政基盤を有するとともに、財務の収入と支出のバランスが考慮されている点は高く評価できる。
- ・学内組織として平成 5 年度から「研究支援機構」を設置し、研究のための外部資金を積極的に受け入れるサポート体制（専任職員、弁理士の配置等）をとり、平成 16 年度までに 255 件の特許出願など、積極的に外部資金を導入する努力が認められる。

基準 9. 教育環境

【判定】

基準 9 を満たしている。

【判定理由】

教育研究目的を達成するために十分な広さの校地に工業大学としてふさわしい諸施設設備が適切に配置されており、法人本部の施設部の管理のもと、教職員が連携し、適切に維持、運営されている。

学内外に対する安全確保のために、「安全衛生委員会」、「非常災害対策委員会」や「防火委員会」等を中心とする安全確保の体制が整えており、全キャンパスのバリアフリー化への取り組みなど安全性が十分に確保されている中で、「ライブラリーセンター」、「自習室」や「夢考房」など快適な教育研究環境が維持、整備され、かつ有効に利用されている。

【優れた点】

- ・「ライブラリーセンター」は図書館としてのみならず、各種教育支援センター、情報センターも兼ね備えた総合サービスセンターとして機能しており、地域貢献も含め、大学図書館のあり方の規範となる。施設の充実もさることながら、その稼働率の驚異的な高さにより、大学の教育に対する姿勢があらわれている。

基準 10. 社会連携

【判定】

基準 10 を満たしている。

【判定理由】

「KIT サマー・サイエンス・スクール」、全国初のキャンパス FM 局「えふえむ・エヌ・ワン」など大学が持っている物的・人的資源が、周辺地域を含め、広く社会に提供されている。

大学の「研究支援機構」が中心となり、企業等への情報発信を行うことが、年間 200 件以上の共同研究・委託研究に結びついていることは高く評価できる。また、学内の研究成果を特許出願し、企業に移転することで外部資金獲得にまでいたっている。

地域安全のため、学生と地域住民との協働による防犯組織「イーグル・セーフティ・プロジェクトチーム」を組織するなど、地域社会（特に野々市町住民）との協力関係が構築されている。

【優れた点】

- ・「研究支援機構」が中心になり、企業等への情報発信を行うことが、年間 200 件以上の共同研究・委託研究に結びついていることは高く評価できる。

基準 11. 社会的責務

【判定】

基準 11 を満たしている。

【判定理由】

組織倫理を確立し、適切に運用するために、学園の建学の精神を継承する場としての「明倫館」を設置し、教職員の研修を行っている。さらに学園組織として、学園独自の第三者評価等を行う「十年委員会」と学生・教員・理事各 5 名による「学園協議会」、学内組織としての「監査室」を設置し、組織倫理の確立を図っている。また、その組織倫理のもとで、制度・システム、危機管理体制及び大学の教育研究成果を広報活動する体制が十分に整備され、適切に機能している。

【優れた点】

- ・学内組織として「監査室」を設置し、内部監査機能の充実を図るとともに外部からの調査等への対応も行っている。また、学生・教授会・理事会の代表者によって構成される全学的な組織としての「学園協議会」が定期的開催され、学生からの各種要望に対して理事会、教授会が早急に対応し、互いの立場の意思の疎通が十分に行われている。